



2023年11月30日

各位

会社名:フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(コード:8462 東証スタンダード市場)
代表者名:代表取締役会長兼社長 澤田 大輔
問合せ先:財務総務部長 西田 賢一郎
(TEL:075-257-2511)

新中期経営計画（フューチャービジョン 2027）策定に関するお知らせ

当社は、2023年6月13日付第25期定時株主総会において新メンバーによる取締役会が発足し、新たなスタートを切りました。つきましては、この度新中期経営計画（フューチャービジョン2027）を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

以 上

フューチャービジョン **2027**

新中期経営計画

2024年3月期～2027年3月期

2023年11月30日



「**想**い」をつなぐ金融

FUTURE VENTURE CAPITAL

フューチャーベンチャーキャピタル

(証券コード8462)

当社は、2023年6月13日付け第25期定時株主総会において、新生「フューチャーベンチャーキャピタル」としてスタートを切りました。

今後は、株式会社DSG1が約22%の株式を保有する筆頭株主としての位置づけを維持していくことにより、当社の『経営の安定化』を最重要施策として考え、株主の皆様に向けて更なる業績の向上や資本政策等の充実を図ってまいりたいと考えております。

企業ガバナンス体制につきましては、当社現経営陣に加え、弁護士、会計士、ベンチャーキャピタル業務、IPOコンサル等の各分野での専門家である社外取締役と共に強化してまいります。また従業員と共に、一層ガバナンス体制の強化を図ってまいります。

新生「フューチャーベンチャーキャピタル」のスタートに当たり、経営基盤を一層強化し、この新中期経営計画を完遂することで、企業価値を大きく高め、株主の皆様のご期待にお応えしてまいります。

代表取締役会長兼社長
澤田 大輔



1. ベンチャー業界の現状
2. FVCの概要
3. 新経営理念・新行動方針
4. 新ブランドロゴ・新ブランドスローガン
5. FVCブランドの強み
6. FVCのファンドカテゴリー
7. 地方創生ファンド設立実績
8. CVCファンド設立実績
9. 投資先のご紹介
10. 全社戦略 事業ポートフォリオの強化
11. 事業戦略
 - 事業戦略① 自己投資事業 成長見込まれるスタートアップへの直接投資
 - 事業戦略② 自己投資事業 地域企業等のM&A
 - 事業戦略③ ファンド事業 地方創生ファンドの拡大
 - 事業戦略④ ファンド事業 CVCファンドの拡大
 - 事業戦略⑤ ファンド事業 テーマ型ファンドの拡大
12. 目標とする経営指標
13. 株主還元に関する考え方
14. 中部エリア強化に伴う新事務所開設
15. 前回中期経営計画の振り返り
16. 前回中期経営計画からの変更点
17. 最後に



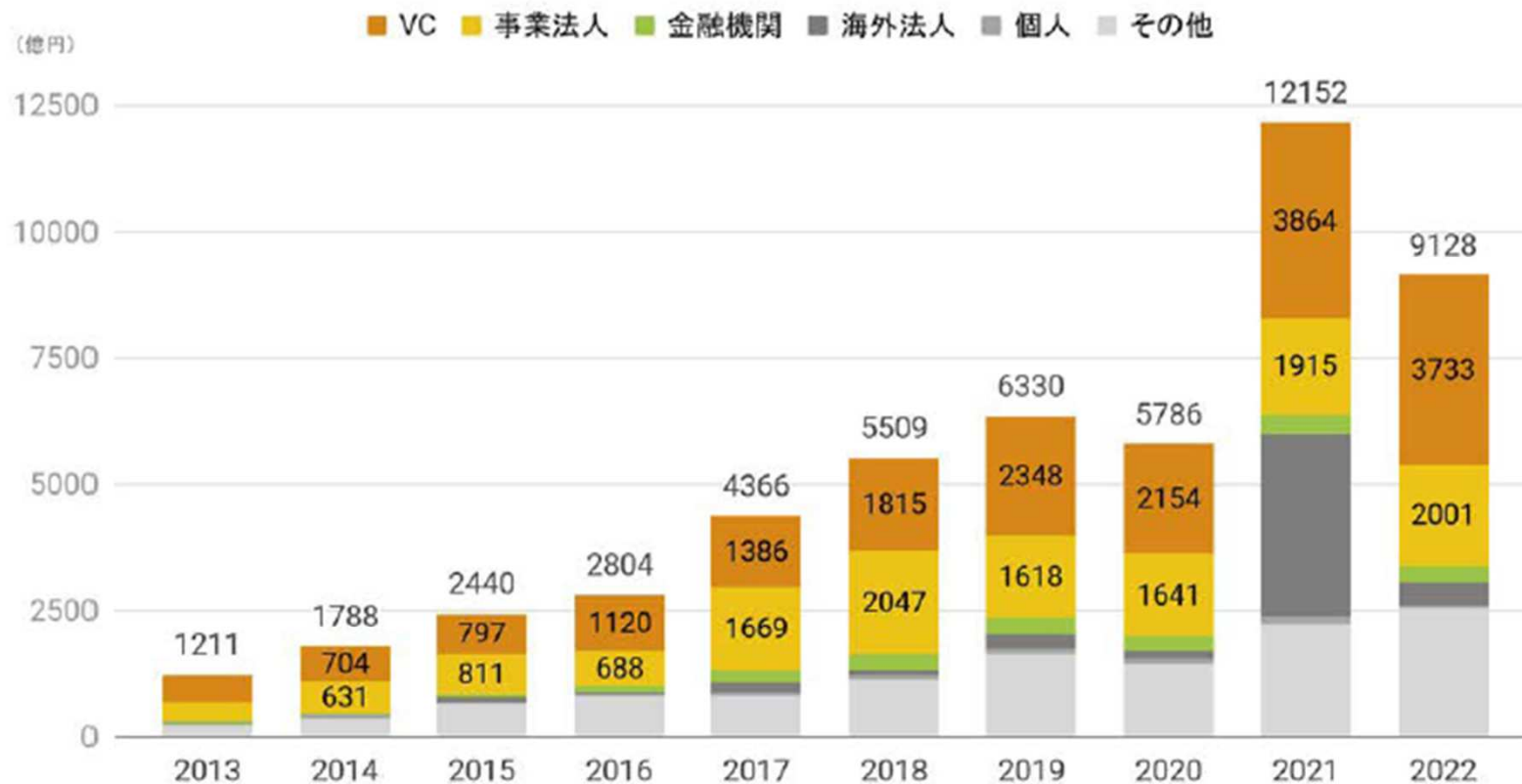


ベンチャー業界の現状



1 ベンチャー業界の現状

投資家タイプ別投資額の推移



注1) 「その他」には未分類・不明を含み、投資家タイプの定義は巻頭参照

注2) 各年の値は基準日時点までに観測されたものが対象

注3) データの特性上、調査進行により過去含めて数値が変動する。調査進行による影響は金額が小さい案件ほど受けやすく、特に直近のものほど変化しやすい

注4) 投資額は「資金調達」とは含める金額の内容が異なり、INITIALによる推測を含む

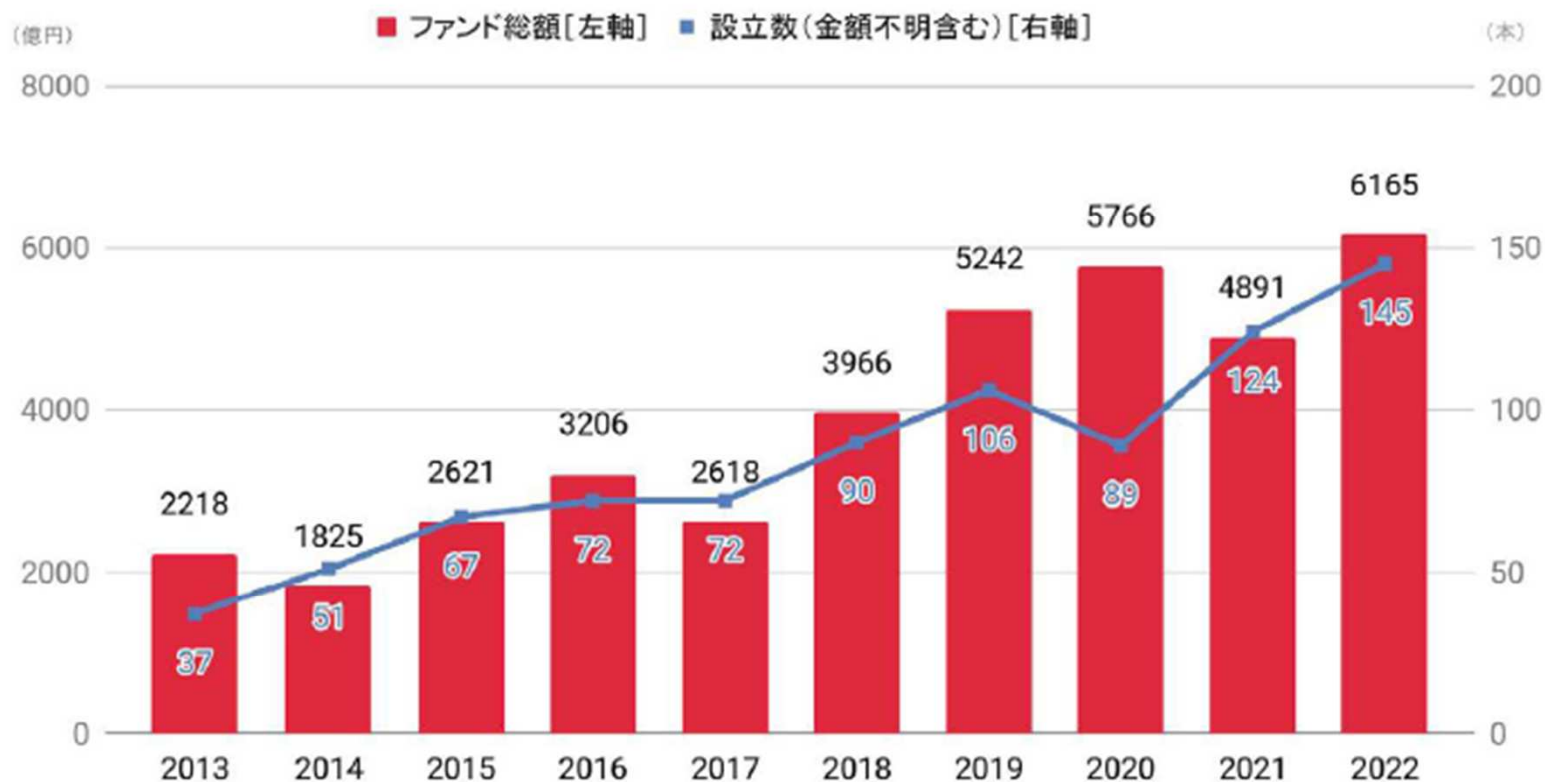
出所) INITIAL (2023年1月21日時点)

出典：INITIAL, 「2022年 Japan Startup Finance 国内スタートアップ資金調達動向」



1 ベンチャー業界の現状

ファンド設立動向



注1) ファンド総額は集計時点で観測された募集完了総額、一部推測値を含む

注2) 国内へのスタートアップ投資を中心に投資を行っているまたは行う予定のファンドが集計対象、国内への投資を確認できない場合は集計に含まれない

注3) データの特性上、調査進行により過去含めて数値が変動する

出所) INITIAL (2023年1月27日時点)

出典：INITIAL, 「2022年 Japan Startup Finance 国内スタートアップ資金調達動向」





FVCブランド



2 FVCの概要

【会社概要】 (2023年3月末現在)

- 業務内容 ベンチャーキャピタル(VC)業務
- 本社所在地 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル
手洗水町659番地烏丸中央ビル
- 設立年月日 1998年9月11日
- 資本金 100百万円
(発行済株式総数 8,902,600株)
- 決算期 3月
- 株式上場市場 東京証券取引所 スタンダード市場
(証券コード8462)
- Webサイト <http://www.fvc.co.jp/>

【運用実績】

- ◆ 累計投資社数 全800社
- ◆ 投資先上場実績 29社
- ◆ ファンド累計投資金額 総額359億円
- ◆ ファンド組成実績 全83組合・総額565億円

【沿革】

- **1998年**
京都で独立系VCとして創業
- **1999年**
民間VCとして初となる
中小機構からの出資
- **2001年**
地方自治体から出資を受けた
初のファンド組成 (石川県)
- **2001年**
VCとして上場
(現・東証スタンダード)
- **2005年**
機関投資家向け大型ファンド設立

日本初

日本初

当社初



3 新経営理念・新行動指針

【経営理念】

私たちは金融を通じて「地方創生」を実現します

【行動方針】

- プロフェッショナル プロフェッショナルとして仕事ができているか
- トラスト 信頼できる仕事ができているか
- ベスト ベストを尽くした仕事をしているか
- チームワーク 共に働く仲間とチームワークを築けているか
- バランス 社会性と経済性を両立した仕事ができているか



経営理念・行動指針の策定の経緯

当社は、1998年9月に創業し25年が経過した当社の状況に鑑み、また、新生「フューチャーベンチャーキャピタル」として今後の経営方針を踏まえた経営理念・行動方針・ブランドスローガンの策定をいたしました。

つきましては、当社として今般策定した経営理念を、今後の経営方針では創業来展開しておりますベンチャーキャピタル事業のみならず、成長見込まれるスタートアップ企業への直接投資、地域企業等への自己投資（M&A）など、事業ドメインの拡大を計画しておりますこと等から、当社の事業を「金融を通じて」と定義し、実現したいことを「地方創生」と定義いたしました。



4 新ブランドロゴ・新ブランドスローガン

【ブランドスローガン】 「想い」をつなぐ金融

【ブランドロゴ】
【ブランドカラー】



「想い」をつなぐ金融

FUTURE VENTURE CAPITAL

フューチャーベンチャーキャピタル

■ブランドロゴの説明

まず、中の3つの円はブランドスローガンでもある《「想い」をつなぐ金融》の「つながり」を表しています。
また、この3つはそれぞれ「F・V・C」という意味と、「地方」・「応援する企業」・「FVCの想い」の3つも同時に表しております。

この円3つの位置は右上にあがるよう配置しており、これは「右肩上がりに成長していく」という意味になっております。

そして、この3つの「つながり」を大きな1つの円として、まわりを赤い円で囲みました。
この円の意味は2つあり、まずひとつめはブランドスローガンにも使用されている「金融」という意味。

ふたつめに、3つのつながりをまとめてFVCが《 真の金融 》の実現を目指してビジネスを大きく展開し、「日本から世界に羽ばたく」という意味がございます。

色は「赤」を使用し、「日本」を表し世界に羽ばたけるエネルギッシュな印象にしております。

(なお、ブランドロゴおよびブランドカラーについては、ホームページ等の広報媒体に準備が整い次第順次使用していく予定でございます。)

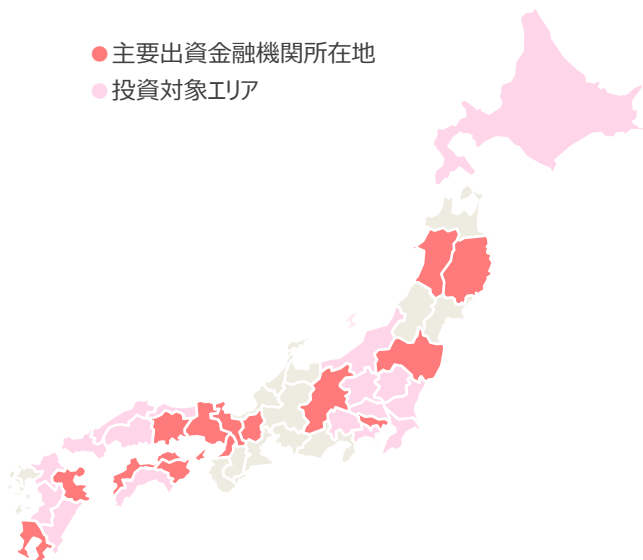


5 FVCブランドの強み

地方創生実績とブランド

カバーエリア
32都道府県

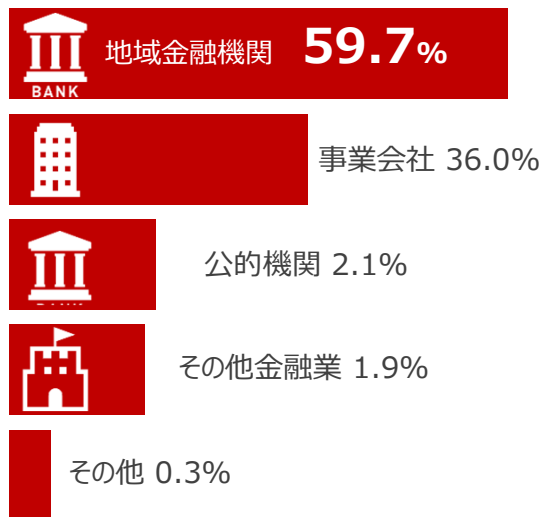
地方創生ファンド投資対象エリア



地域金融機関ネットワーク

ファンド出資者の**約6割**
が地域金融機関

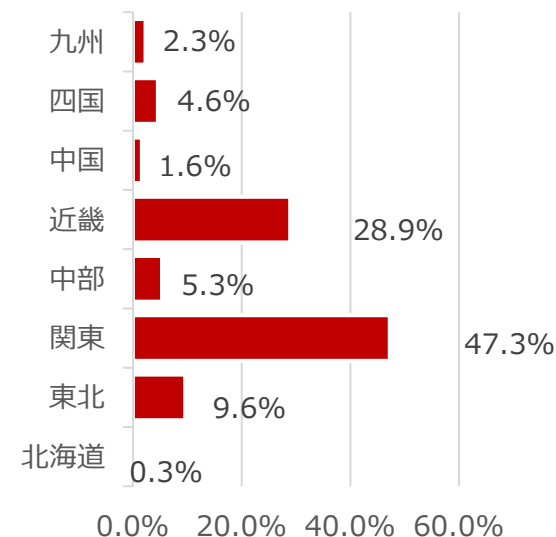
主な出資者構成



地方公共団体ネットワーク

11ファンド
が地公体と連携

投資残高 地域分散



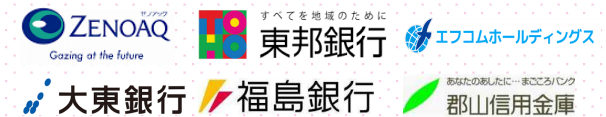
※2023年3月31日時点

6 FVCのファンドカテゴリー

ものづくりファンド



ふくしまメディカルヒルズファンド



事業会社との2人組合



地方創生ファンド



テーマ型

CVC

地方創生

※2023年3月31日時点

自治体等との連携協定

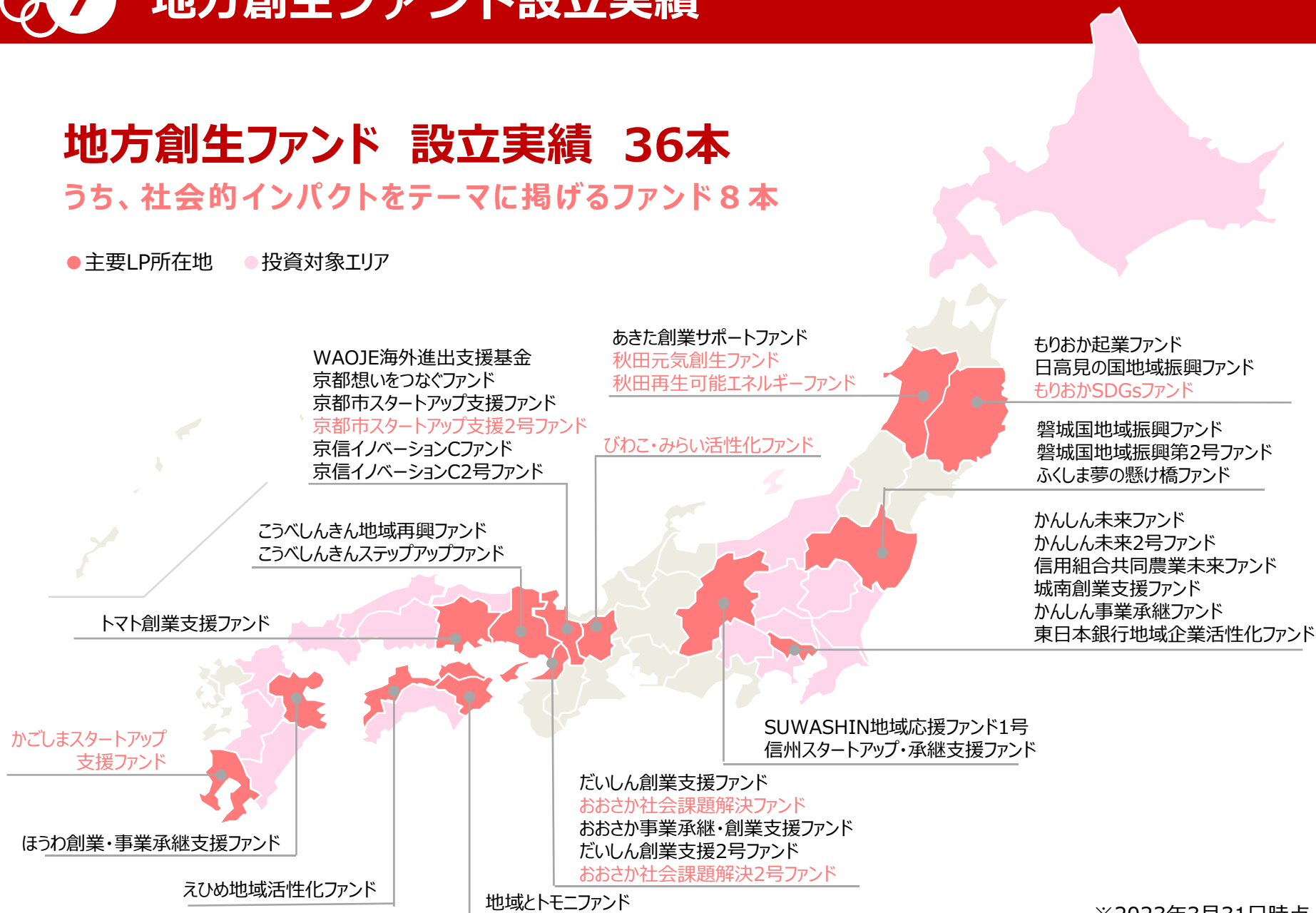


7 地方創生ファンド設立実績

地方創生ファンド 設立実績 36本

うち、社会的インパクトをテーマに掲げるファンド 8本

● 主要LP所在地 ● 投資対象エリア



※2023年3月31日時点

8 CVCファンド設立実績

CVCファンド設立実績 10本



ブリッジベンチャー
ファンド2014

非公表（印刷業）
ファンド総額：3億円
設立：2014年6月



ウィルグループ
インキュベートファンド

ウィルグループ
（サービス業）
ファンド総額：3億円
設立：2015年6月



フェニックスファンド

フジミンコーポレーテッド
（素材メーカー）
ファンド総額：3億円
設立：2015年11月



イノベーション
創出ファンド

阿波製紙（紙製品メーカー）
ファンド総額：非公表
設立：2017年3月



ウィルグループ
HRTechファンド

ウィルグループ
（サービス業）
ファンド総額：10億円
設立：2017年5月



あなぶきスタート
アップ支援ファンド

あなぶき興産
（不動産業）
ファンド総額：5億円
設立：2018年3月



ウィルグループ
HRTech2号ファンド

ウィルグループ
（サービス業）
ファンド総額：10億円
設立：2019年3月



KOBEスタートアップ
育成1号ファンド

デジアラホールディングス他
（エクステリアネット販売）
ファンド総額：3億円
設立：2019年3月



ブリッジベンチャー
ファンド2020

非公表（印刷業）
ファンド総額：3億円
設立：2020年7月



あすか
イノベーションファンド

あすか製薬（医薬品）
ファンド総額：10億円
設立：2023年3月

※2023年3月31日時点



9 投資先のご紹介

創業支援型

【伝統文化】

(株)松沢漆工房

漆の精製加工・販売、漆器の企画・小売・卸売

株式会社松沢漆工房

Matsuzawa Urushi Kobo
漆の新たな未来をつくる会社
since 2009

【地域スポーツ】

(株)TRY HOOP

地域プロスポーツチームの運営を通じた地域振興



【地域商社】

いわきユナイト(株)

地域特産品の商品企画、プロデュース、卸売



【ペット産業】

(株)クロス・クローバー・ジャパン

猫専用雑貨の企画、販売、セレクトショップ運営



【インバウンド】

(株)わかか

しまなみ海道リサイクル総合施設



【ご当地プロレス】

(株)魅せるぜえひめ愛

「愛媛プロレス」による地域活性化



直近3年IPO実績

【建設DX】

(株)Arent

建設業界向けDXコンサル、システム開発・販売等

2023年3月
IPO



【シニアホーム紹介サービス】

(株)笑美面

シニアホーム選びから入居までを支援

2023年10月
IPO



【採用支援】

(株)i-plug

ダイレクトリクルーティング

2021年3月
IPO



【不動産管理】

(株)スマサポ

不動産管理業界向けソリューション提供、DX推進

2022年12月
IPO



【eラーニング】

KIYOラーニング(株)

ビジネスパーソン向け教育コンテンツ

2020年7月
IPO





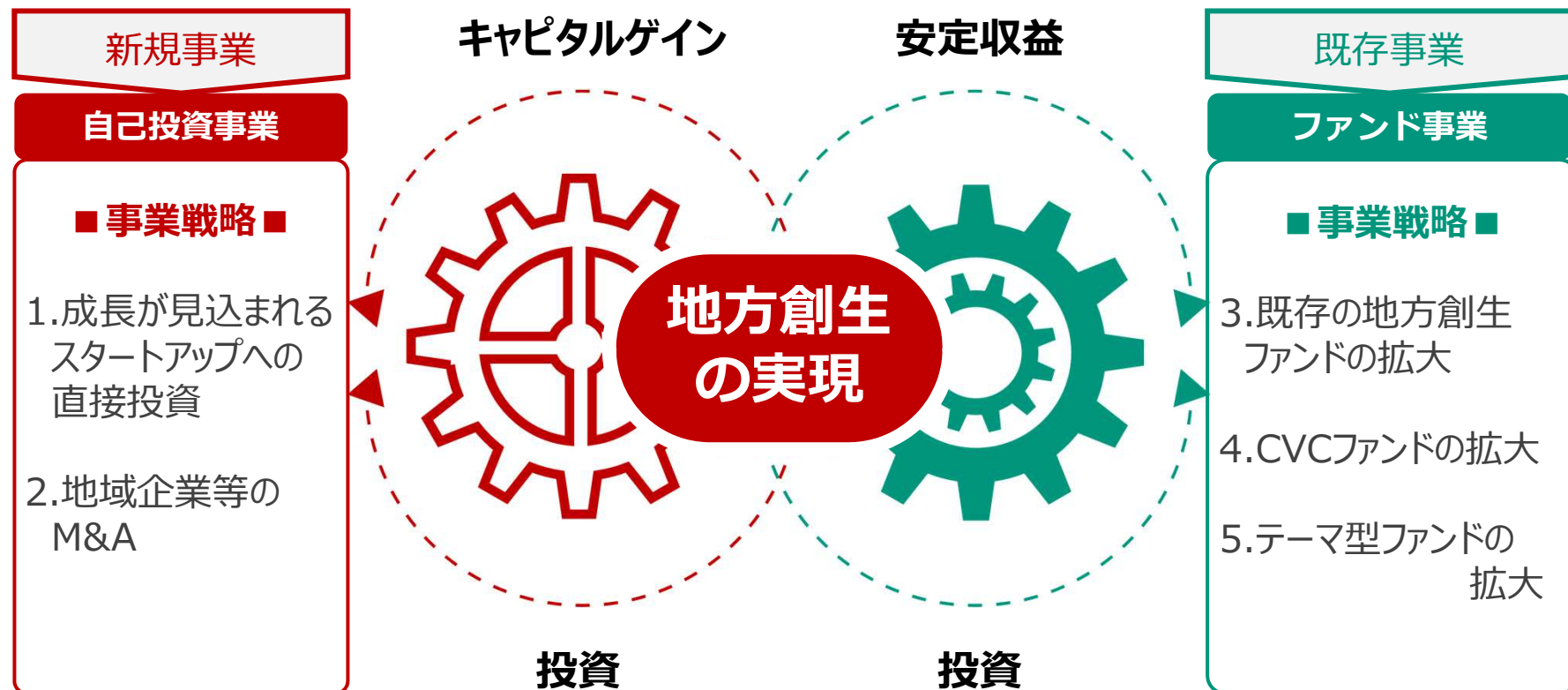
事業戦略



10 全社戦略 事業ポートフォリオの強化

地方創生の実現を目指した

新規自己投資事業と既存ファンド事業の拡大による安定収益の獲得



新規事業

① 成長が見込まれるスタートアップ企業への直接投資



ユニコーン企業等を目指す革新性・成長性に富んだスタートアップ企業への直接投資等

② 地域企業等のM&A



既存ファンド事業とは別事業を行う法人のM&Aにより、新たな収益の柱を構築

既存事業の拡大

③ 既存の地方創生ファンドの拡大



地方公共団体と複数地域金融機関との連携を強化しファンド規模の拡大

④ CVCファンドの拡大



地方の事業多角化を目指す中核企業をターゲットにCVCファンドの拡大

⑤ テーマ型ファンドの拡大

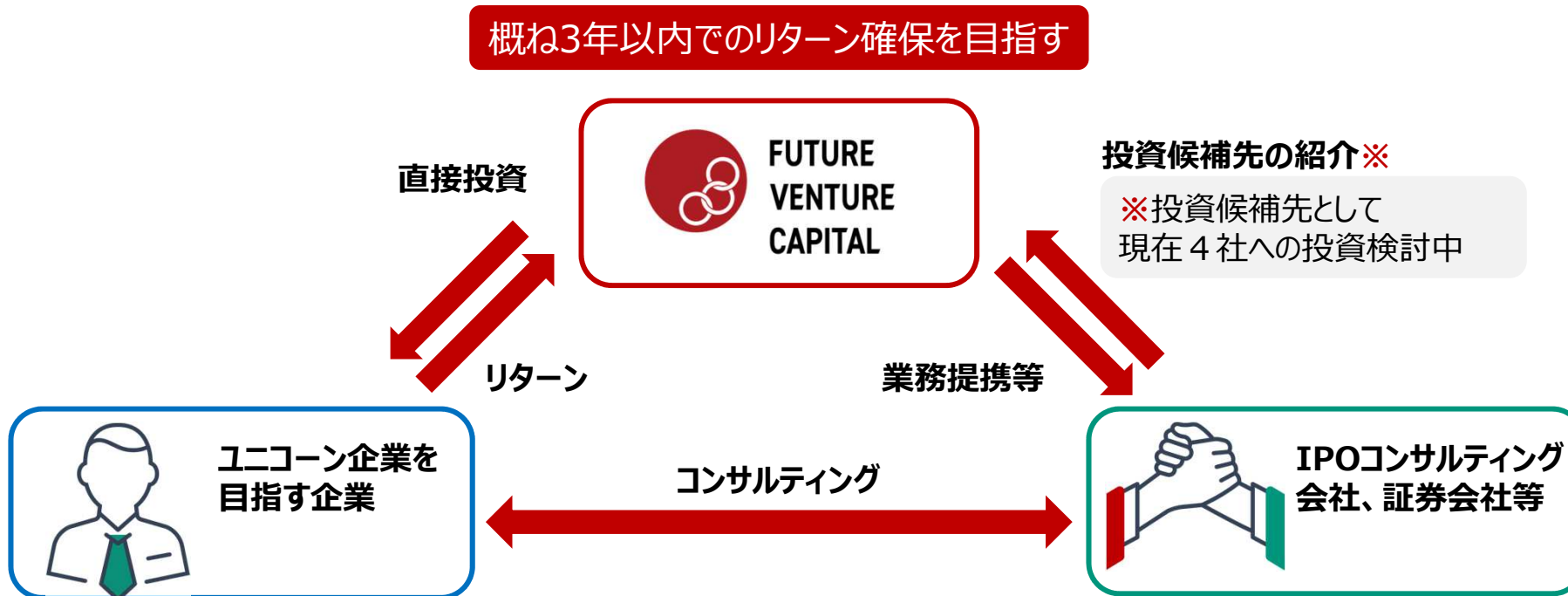


新たな事業領域へのテーマ型ファンドの拡大

ユニコーン企業を目指すスタートアップ企業への直接投資

投資対象候補の例

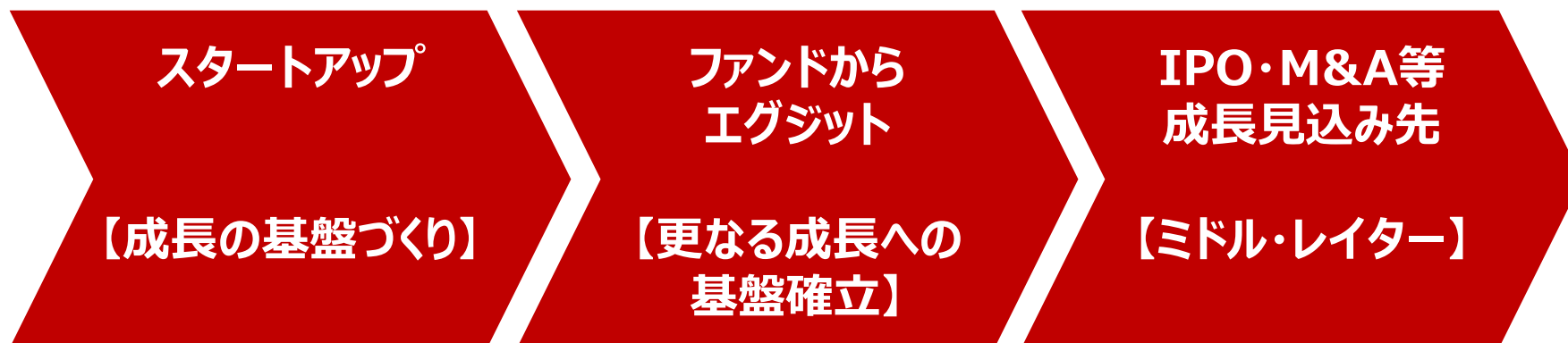
IPOコンサルティング会社や証券会社等と業務提携等により、**ユニコーン企業を目指す**（概ね3年以内にIPOを実現）スタートアップ**企業**（既存ファンドとの利益相反とならない企業）に対する**直接投資**による**ハイリターン**の確保。



更なる成長が見込まれる既存ファンド卒業生への追加的 direct 投資

投資対象候補の例

地方創生ファンド等からエグジット（卒業）を迎えたが、追加的資金支援でIPO・M&A等の実現が見込まれる企業（既存ファンドとの利益相反とならない企業）への直接投資によるミドルリターンの確保。



既存ファンド事業とは別事業を行う法人のM&Aにより、
新たな収益の柱を構築

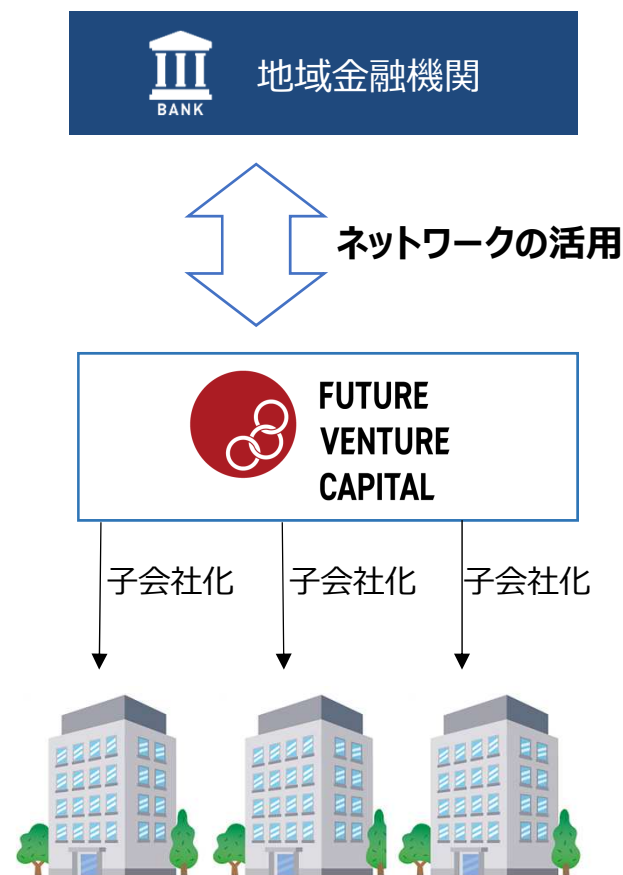
<地域企業等のM&Aコンセプト>

1. M&Aイメージ

- ① 後継者不在に悩む地域企業等の事業承継を支援
- ② 地域金融機関とのネットワークを活用したソーシング、地域経済を下支えしている地域企業等の子会社化
- ③ 安定的な経営成績の地域企業等を子会社化し、中長期保有

2. 投資スコープ

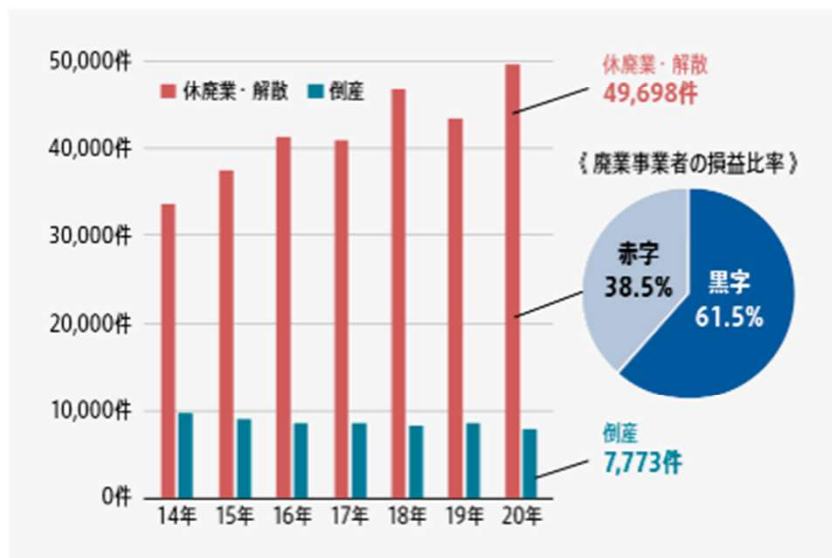
- ① 投資対象は安定的な経営成績のある地域企業等
- ② ベンチャーキャピタル事業における投資先企業のバリューアップに貢献できる業態、もしくは、後継者不足に悩む地域企業等



また、後継者の不在状況は深刻であり、近年増加する中小企業廃業の大きな要因の一つで、このままでは日本経済・社会を支える貴重な雇用や技術が失われる可能性がある。

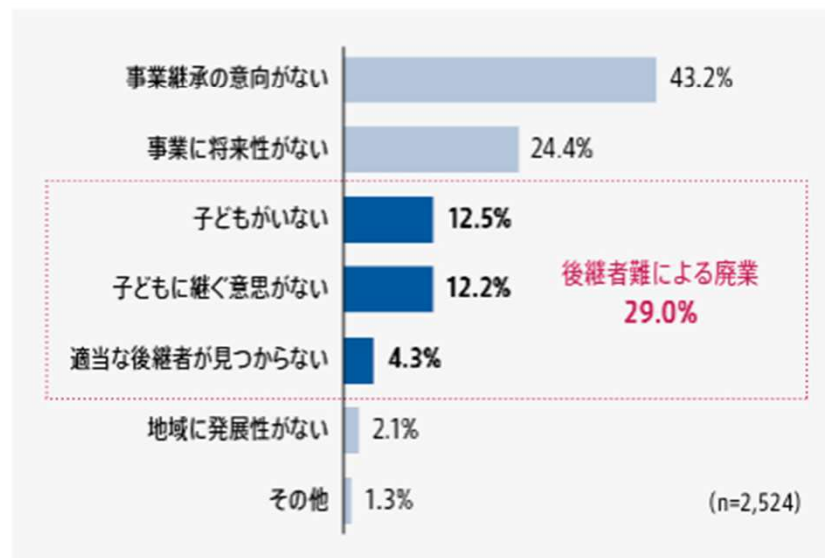
後継者不在と廃業

廃業件数が増加する中、6割が黒字にも関わらず廃業



【資料】 東京商工リサーチ

廃業理由の3割が後継者難



【資料】 日本政策金融公庫総合研究所「中小企業の事業承継に関するインターネット調査」(2020年)再編加工

出典：中小企業庁ウェブサイト
 (https://www.chusho.meti.go.jp/zaimu/shoukei/know_business_succession.html)

地方公共団体・地域金融機関と連携した地方創生ファンドの拡大

既存の地域金融機関連携型地方創生ファンドに加え、**地方公共団体・地域金融機関連携型地方創生ファンド**の拡大を図る。

下記「**スタートアップ・承継支援ファンド**」を**モデル事業**とし、当社と地方公共団体、地域金融機関等と連携して地域経済の活性化に取り組む。

【モデル事例】

名称等	信州スタートアップ・承継支援投資事業有限責任組合 略称：信州SSファンド
総額	7億7百万円
GP	フューチャーベンチャーキャピタル(株)
LP	八十二サステナビリティ1号投資事業有限責任組合、株式会社長野銀行、長野信用金庫、松本信用金庫、上田信用金庫、諏訪信用金庫、飯田信用金庫、アルプス中央信用金庫、長野県信用組合、長野県信用農業協同組合連合会、長野県信用保証協会
運用期間	10年間【令和4年（2022年）4月1日～令和14年（2032年3月31日）】
投資対象	県内に本社又は主要な拠点を置く株式会社のうち次のもの 創業期の企業、第二創業に取り組む企業、事業承継を必要とする企業、地域経済の活性化に資する企業

地方の事業多角化を目指す中核企業をターゲットに
CVCファンドの組成拡大

地域金融機関のネットワークを活用した
優良な地方企業へのCVCファンド営業



大都市圏の上場企業等を中心とした従来のCVCファンドに加え、地域金融機関のネットワークを活用し、取引先企業への新規事業開発ソリューションの一環としてCVCファンド組成と活用を共同提案



大手コンサル会社やシンクタンク向けにFVCのCVCファンドを周知し、クライアント企業への新規事業開発ソリューションの一環としてCVCファンド組成と活用を共同提案



SNS等による積極的なCVCファンドに関する情報やCVCファンド組成検討企業向けセミナーを開催し、見込み先発掘とアプローチを図る



新たな事業領域のテーマ型ファンドの拡大

フィンテックやAI等、今後市場規模拡大が見込まれる新たな事業領域（テーマ）に特化したテーマ型ファンドの拡大

◆ 現状のテーマ（ゼネラル）ファンド設立実績 2本



ロボットものづくり
スタートアップ支援ファンド

菊池製作所 他
（研究開発・試作）
ファンド総額：26億円
設立：2019年12月

「日本のモノづくり技術を世界へ」をテーマに、菊池製作所のバックアップにより、試作～量産、製造、事業立ち上げの一連を積極支援します。加えて、その他の出資者（事業会社や金融機関等）により、ファンド全体でハンズオン支援を実施します。



ふくしま
メディカルヒルズファンド

事業会社・地域金融機関
ファンド総額：3億円
設立：2023年3月

福島県は医療・福祉機器大手の研究開発及び生産拠点とそれらを支える優良な中小企業の大集積地です。当ファンドは、福島県内の優良な知財を有する医療・福祉機器企業をターゲットに投資育成に努めていくことで、福島県の産業基盤のさらなる強化を図ります。

※2023年3月31日時点





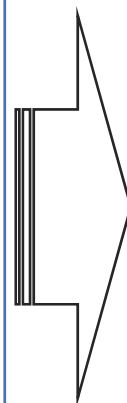
目標とする経営指標



12 目標とする経営指標

2023年3月期 実績	
売上	5.6億円 (連結ベース)
利益	2.1億円 (経常利益基準)
ファンド 総額	212億円
時価総額 株価	87億円 988円

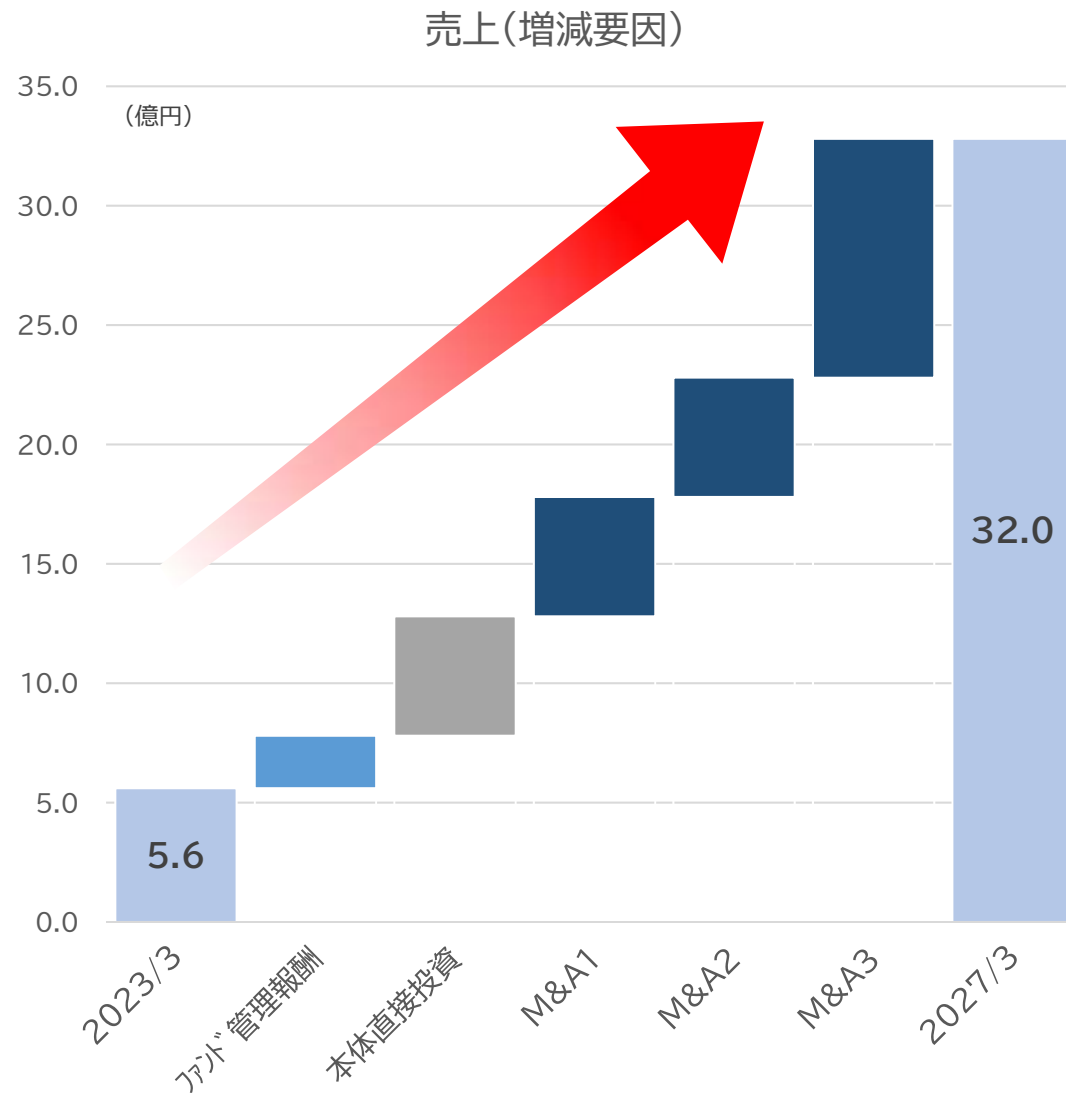
※株価は2023年3月31日



2027年3月期 目標	
売上	30億円程度 (連結ベース)
利益	黒字拡大 (経常利益基準)
ファンド 総額	300億円程度 (コミットメントベース)
時価総額 株価	200億円程度 2,300円程度

12 目標とする経営指標

- STEP1.** 既存のファンド事業の管理報酬において、堅実に実績を積み上げ
- STEP2.** 本体直接投資によるリターンの積上げ
- STEP3.** 並行して、地域企業のM&Aを実行（中長期保有）
- STEP4.** ファンド事業、M&A事業での相乗効果を実現し、グループ全体として売上・利益を伸ばし企業価値向上を図る



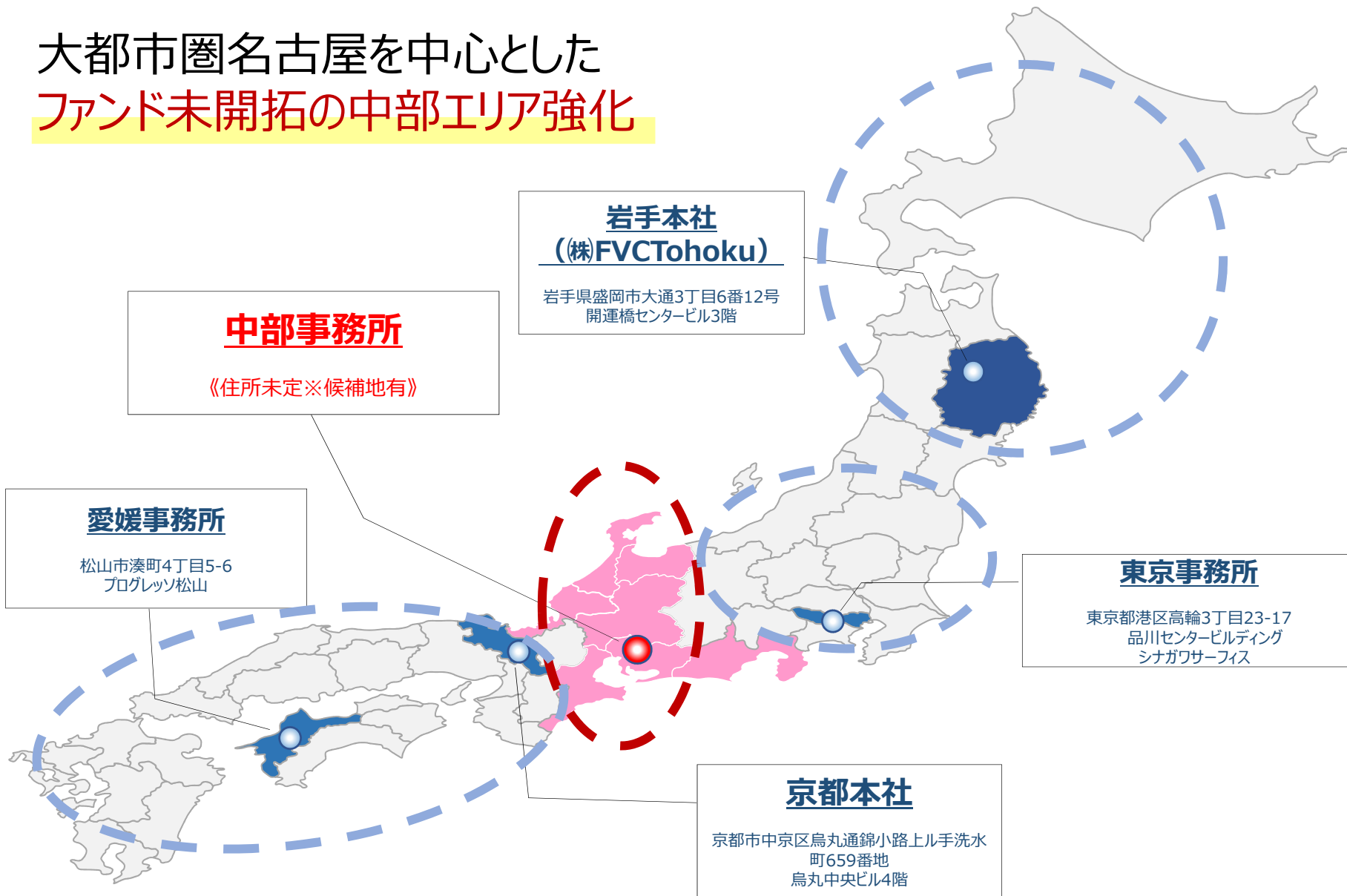
13 株主還元に関する考え方

当社は、収益性を高めつつ持続的な成長を実現すると共に、株主の皆さまへ適切な利益還元を行い、企業価値向上を図ることを重要な経営課題と考えています。

- 事業ポートフォリオの強化による収益力向上
- 企業価値向上への投資と安定した財務基盤の維持
- 株価が企業価値に対し不合理に安くなった局面では、機動的に自社株買い等を検討

14 中部エリア強化に伴う新事務所開設

大都市圏名古屋を中心とした
ファンド未開拓の中部エリア強化



15 前回中期経営計画の振り返り

新・中期ビジョンと成長戦略

2022年9月12日

成長戦略及び数値目標

永久保有型M&Aの推進
(サーキュラーエコノミー)

既存ファンド事業の拡大

数値目標	2026年3月期
ファンド総額	270億円程度
売上高	20億円程度
収支	黒字 (経常利益基準)
株価	2,000円程度
(時価総額)	175億円程度

振り返り

永久保有型M&Aの推進を中心とし、営業活動を展開したものの、株主総会において経営陣が交代する可能性が出てきたため、契約直前に相手先からストップがかかり、結果的にM&Aは実現しなかった。

このM&Aが実現すれば、FVCの持株会社化を行い事業会社各社がその役割を果たし、結果的にはファンド事業を拡大させることにより、2026年3月期の数値目標達成に向けて事業展開を目論んでいた。

しかしながら、M&Aが実現できなかったことと、営業の主体をこのM&A実現に注力したことで、ファンド事業の拡大が手薄になったことでCVCファンド1本・テーマ型ファンド1本合計2本組成したものの、主力である地方創生ファンドの新たな組成ができなかったことは、反省すべき点である。



16 前回中期経営計画からの変更点

新・中期ビジョンと成長戦略 2022年9月12日

永久保有型M&Aの推進
(サーキュラーエコノミー)

既存ファンド事業の拡大

数値目標	2026年3月期
ファンド総額	: 270億円程度
売上高	: 20億円程度
収支	: 黒字 (経常利益基準)
株価	: 2,000円程度
(時価総額)	: 175億円程度

フューチャービジョン 2027 2023年11月30日

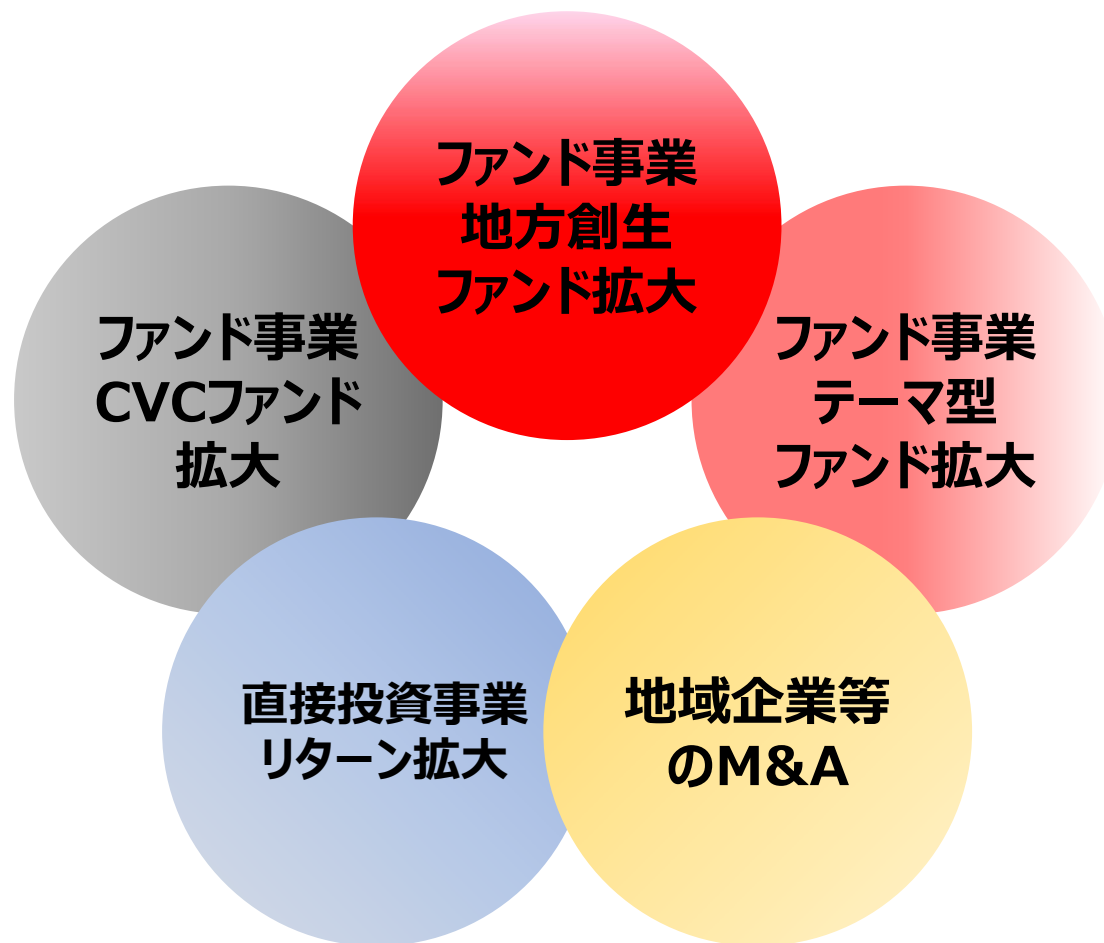
永久保有型M&Aのサーキュラー
エコノミー事業は**計画中止**
但し、中長期保有型の地域企業等のM&Aを
新中期経営計画にて推進。

新中期経営計画でも**重点項目**
事業戦略① 成長見込まれるスタートアップへの
直接投資

- 事業戦略② 地域企業等のM&A
- 事業戦略③ 地方創生ファンドの拡大
- 事業戦略④ CVCファンドの拡大
- 事業施策⑤ テーマ型ファンドの拡大

数値目標	2027年3月期
ファンド総額	: 300 億円程度
売上高	: 30 億円程度
収支	: 黒字拡大 (経常利益基準)
株価	: 2,300 円程度
(時価総額)	: 200 億円程度

上場会社として企業価値と
株主価値向上を目指し中長期的な『成長』を目指す経営へ



免責事項

本資料は、フューチャーベンチャーキャピタル株式会社（以下「FVC」）及びその子会社（FVC Tohoku株式会社を含み、以下FVCと併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時において入手した情報等に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。こうした記述は将来の業績予想を保証するものではなく、将来の業績は、経営環境の変化などにより、実際とは異なる可能性があることにご留意ください。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるその他要因については、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照下さい。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券並びにファンド持分（又は同等の有限責任持分）への投資勧誘を目的とするものではありません。本資料に係る一切の権利は、他資料等の引用部分を除き当社グループに属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は難くお断りします。本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。



**FUTURE
VENTURE
CAPITAL**

「想い」をつなぐ金融

フューチャーベンチャーキャピタル

